

地域おこし協力隊活動記

東京でアイスバーガーを宣伝・販売しました！

皆さん、こんにちは。8月は東京の福島県アンテナショップ「日本橋ふくしま館」にて開催された小野町特産品フェアに3日間行ってきました。私は商工会青年部に協力しアイスバーガー販売のため、通りに出て顧客の呼び込みをしました。呼びかけの内容は時間帯や道行く人のタイプなどに応じていろいろパターンを変えて試してみました。呼びかけを聞いて「美味しそう」などと口にしながら店に入っていく人がいると嬉しいものです。

県外での出展時は町や県出身の方と出会って話ができることが楽しみの一つです。また首都圏に住む友人も来てもらえたので、向こうにも自分の味方がいるのだと実感し心強く思いました。

今回の出展で、黒にんにくによる六次化産業やご当地グルメなどさまざまな取り組みをしている町であることを東京の人たちにも知ってもらうことができました。小野町の名物を販売することで、商品だけでなく町全体の宣伝に大きな効果があったと思います。

古崎です！



ふるさとの思い出

ふるさと小野町会 ふれあい通信



柏原 信夫

かしわばら・のぶお

- 小戸神出身
- 千葉支部

田舎を離れて50年が過ぎました。県道は砂利道で、村の道路は当時鐵興社(小野新町駅付近の工場)から出るスラグ(鉄を精製する為に出る廃棄物)が敷かれ、緑色した塊で覆われた道路でした。

初詣は師走最終日の夜10時ころ家を出発し、暗闇の中を歩き馬幡(共同放牧地、現在は田に区画整理され、当時は馬を放牧していた。)を通り東堂山満福寺へと向かいました。本城戸(当時は、車で登る道路が無かった)を登り始めると参拝客が多くなり先を急いでいる人がおりましたが、私たちは、荷物(投げ餅)を持っていたので石垣の麓で途中休憩した時に母が話しはじめ、昔は石垣が三回崩れたこと、昔は石垣が崩れるのは「たたり」があると言われ、生娘を人柱として埋めて石垣の崩落を止めたと言われているから、休憩が終わったら手を合わせ供養しなさいと言われました。参道を登りきると、仁王門を見て賽銭箱へ投げ入れると母親から仁王様はどこを睨んでいるのかと聞かれ、解らないと答えると、昔、坂上田村麻呂が蝦夷を征伐した時に、鬼穴に住ん

でいた盗賊が二度と謀反を起こさぬよう大越(現在の田村市大越町、滝根町の鐘乳洞あたりと思われる。)方面を睨んでいた、坂上田村麻呂が東堂山満福寺を建立したと教わったことがあります。

仁王門を過ぎると石段があり、石段の高さが50cmあり登るのに大変だった記憶があります。登りきると右手に鐘楼、左手に馬頭観音碑があり、又毘沙門堂があり本堂がある広場には出店が立ち並んでいたようです。投げ餅を時き終え境内を離れると母が、檀家の人は山形県からお礼参りに訪れる人がいるよと言っていました。

山門の杉の木は日本三大杉の1つだよと言われ秋田杉、東堂杉、飛騨杉と言われています。中間の東堂杉は知名度が低い木造船の材料に最適だよと言われ、お前が家を作るときは地元の木を使うんだね、と言われた記憶があります。昭和羅漢様に手を合わせ有名な人が奉納したことを知り、私も奉納できよう頑張るつもりです。